

## 学校経営のポイント

### “練習問題を出す”際の最低限の留意事項

若井 彌一

授業時間中に練習問題を解かせたり、宿題として練習問題に取り組みせたりして、児童・生徒に基礎学力の定着を図り、あるいは、応用力をつけさせる試みは、教科を問わず、多くの学校で日常的に試みられている。最近、練習問題の内容が、「教育的」に適切であるのかが疑問視される例が目につくので、ここで一度取り上げておきたい。

#### 裁量範囲は広いが、無制限ではない

小・中・高等学校の教諭の職務は、児童・生徒の「教育をつかさどる」ことである（学校教育法 37 条 11 項、49 条、62 条等）。これは、小・中・高等学校の教諭の職務を一般的に規定したものであり、この「教育」のなかには、多様で具体的な教育的行為が含意されている。

教科用図書を開いて、その内容を読んだり書かせたりすることのほか、教諭が学習内容について、児童・生徒の理解を広めたり高めたり深めたりするために、類似問題や関連問題をあらかじめ準備しておいて出題することは、ごく一般的なやり方である。

その際の仔細に及んでの具体的な説明の仕方は、教諭の専門的裁量にゆだねられている。しかし、類似問題や関連問題を出すことが絶対的無制限の裁量にゆだねられているものではないことも自明である。

「なぜ、こんな出題の仕方（表現）になるのか？」と、常識的に考えて強い疑問が児童・生徒や良識ある人々に生じるようでは、やはり、問題がある。

たとえば、小学校 3 年生に対して、算数の割算の問題として、「子どもが 18 人います。1 日 3 人ずつ殺します。何日で殺せるでしょう」という出題が、今年 5 月中旬に、プリントではなく口頭で行われたことがわかり、この教諭と監督責任を負う校長も、市教育委員会により厳重注意を受けたことが報道さ

れた（平成 22 年 9 月 15 日付け『18 人を 1 日 3 人殺したら』小学校教諭、割り算で出題』asahi.com による）。

この教諭は、「指導に自信がなく、子どもたちの興味や関心をひこうと、ついやってしまった。その場ですぐ謝罪したが、申しわけない」と反省の弁を述べており、まだ救われる思いがする。

また、今年 9 月 27 日、小学校 5 年の「道徳」の授業で、児童をグループ分けしたうえで、「担任の身柄を確保した。返してほしければ 7 時、ちびっ子広場に 8000 円もってこい。1 秒でも遅れると命はないものと思え」などと板書し、「児童に配布した新聞から必要な文字を切り取り、用紙に貼らせ、同一文書を作るよう指示した」というような例が判明した（10 月 1 日「小 5 道徳授業で脅迫文作り」『産経新聞』による）。この教諭も、「よくない例だった」と反省しているとのことだが、教育的配慮に欠ける事例であり、注意が必要である。

#### 常識的疑問に対応できること

教育的配慮といっても、絶対的かつ仔細に及んでの具体的基準が確立しているわけではない。しかし、そうは言っても、公然と違法行為や犯罪行為をあおったり、そそのかすような趣旨の設問内容は、「道徳」の授業だけでなく、他の授業時間における出題の仕方としても適切な出題として認められることはあり得ない。加えて、基本的人権の保障という観点から、「なぜ、あえて、こんな設問を？」と問われるような出題内容・表現でないことも、最低限の留意事項である。

これらの条件を満たし、かつ、補助教材としての必要な配慮をも踏まえた出題を心がけることが、不可欠な備えである。（わかい・やいち = 上越教育大学長）

●最新刊！

新教育課程下の人材育成は教員評価がポイント！ B5判 204 頁／定価 2,520 円

『「人事考課」で教師・学校のパワーアップ戦略』高階 玲治【編】

『教員の養成・免許・採用・研修』若井 彌一【編著】A5 判 370 頁定価 3,570 円